

令和元年度(平成31年度)地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域住民と小中学生が一緒に学ぶ防災教室
事業主体 (連絡先)	開田高原地域協議会(木曾町開田支所木曾馬の里振興課 事務局) (0264-42-3331)
事業区分	(4)安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	819,396円(うち支援金:654,000円)

事業内容

開田高原地域では、自主防災組織が中心となって積極的に防災訓練などへ参加していますが、深刻な高齢化により支援体制に課題があります。そこで、地域の将来を担う子供たちと地域住民と一緒に、防災用品を使って体験したり習得することで、いざという時に自主的な行動ができるよう防災教室をおこないます。

今年度は、小学生と地域住民を対象とした防災教室を1回、中学生と地域住民を対象とした教室を1回、地域住民すべての方(小中学生を含む)を対象とした防災訓練を1回実施しました。

避難生活を想定し、床に直接寝た場合と、ダンボールベッドやパーテーションを使用した場合の違いを体験しました。



【地域住民と小中学生が協力してダンボールベッド等を組み立てる】

【目標・ねらい】

- ① 防災意識の向上
- ② 地域住民と小中学生の交流
- ③ 参加者の家庭や地域への防災力向上の波及効果

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 参加者アンケートから、「今回の体験で、避難所での生活を具体的に想像することができた」などの記述が見られ、効果を実感しました。
- ② 小中学生を対象としたことで、平日の日中開催となり、地域住民の参加者はあまり増えませんでした。しかし、避難所体験を協力しておこなうことで、異世代間の交流ができました。
- ③ 小中学生からは、家庭に帰って保護者に今日の体験を話したいという声が多く聞かれました。

※自己評価【A】

【理由】

- ・ 共助意識の向上(参加者アンケートによる)を目標としていましたが、達成することができました。
- ・ 新聞やCATVに取り上げていただき、地域住民に広く知っていただくことができました。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

防災教室は今年で2年目の取り組みとなりました。引き続き防災に関する体験をおこなうことで、いざという時に自ら考え行動できるよう、防災意識の向上に取り組んでいきたいと思います。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある